



●表紙について

さまざまな事業への取り組みや社会的な活動などが組み合わさり、互いに関連し合っており、ひとつの大きな目標(企業としてあるべき姿)になっていることを表現しています。



印刷資材から製造工程までの全てで環境に配慮されていることを示します。



印刷時に有害な廃液が出ない水なし印刷方式で印刷しています。



インキ中の石油系溶剤を全て排除し、植物油(大豆油)に切り換えた環境配慮型水なしVOCフリーインキで印刷しました。
※VOC(揮発性有機化合物:Volatile Organic Compounds)



管理森林から伐採した木材を使用して自然森林を守っています。

色覚の個人差を問わず、できるだけ多くの人たちが見やすいような表示を配慮しました。



INDEX

- 会社概要 1
- トップメッセージ 2・3
- 竹田印刷のCSR経営 4・5
- 竹田マネジメントシステム 6・7
- 特集**
- 1. KAGUYAプロジェクト 8・9
- 2. 半導体関連マスク事業 10・11
- (TOPICS)各事業部の主な活動 12・13
- [組織統治] コーポレート・ガバナンス／株主・投資家の皆様とともに 14・15・16
- [公正な事業慣行] サプライヤーの皆様とともに 17
- [消費者課題] お客様とともに 18・19
- [労働慣行] 社員とともに 20・21・22
- [人権] ダイバーシティとワーク・ライフ・バランス 23・24
- [コミュニティ] 地域社会とともに 25
- [環境] 環境活動
- マネジメントシステムの状況 26
- 環境保全の状況 27・28
- 印刷物製造上の環境対応 29
- 竹田印刷の環境認定状況 29

編集方針

本レポートは、竹田印刷の2016年度の主なCSRへの取り組みを、より多くのステークホルダーの皆様にご覧いただけるよう制作・発行いたしました。

当社の基幹事業である印刷事業は、市場が大きく変化しています。2016年度の当社の活動にもその影響はおよび、印刷事業や半導体関連マスク事業に続く新事業への挑戦は年々活発になっています。

また、当社はISO9001(品質)、ISO14001(環境)、ISO27001(情報セキュリティ)及びJIS Q15001(個人情報保護)の各マネジメントシステムを統括し、TMS(竹田マネジメントシステム)として経営目標を達成するための仕組みやルールを定めました。そしてこれを確実に実施するよう取り組みを進めています。

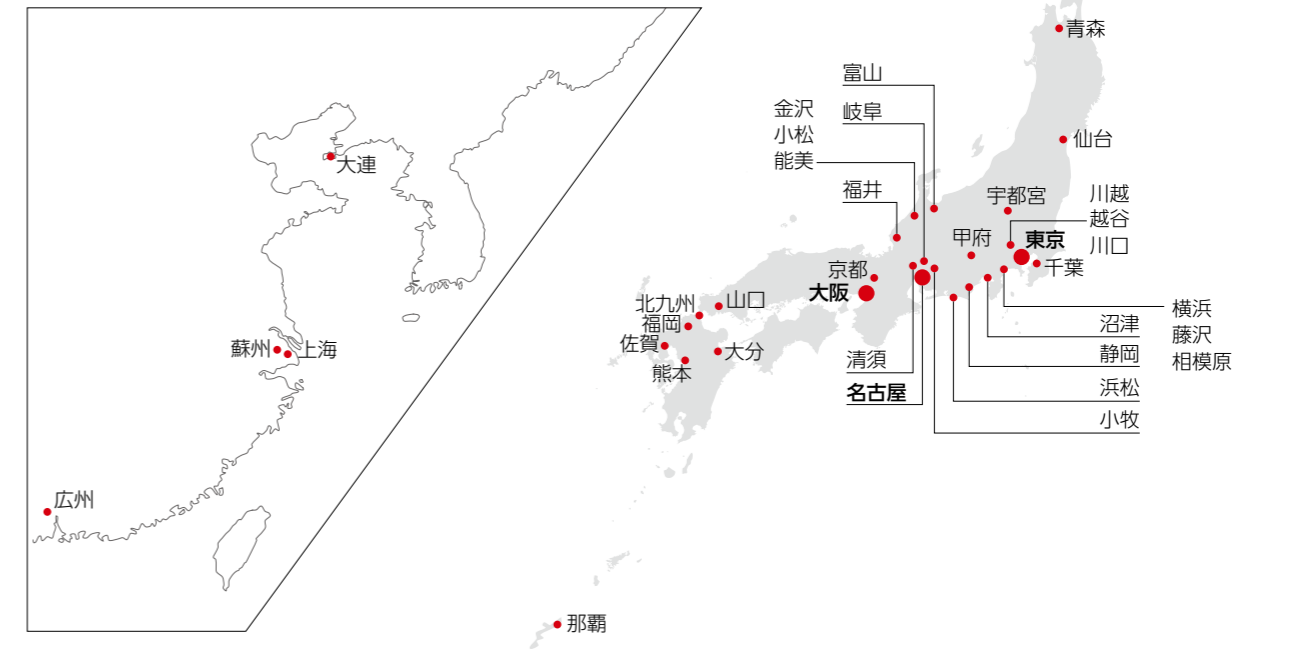
このようなさまざまな当社の活動と今後の向かうべき方向を、わかりやすく見やすいように工夫しながら本レポートを編集いたしました。

ご一読いただきますとともに、当社の今後の活動の参考とさせていただきますため、添付のアンケート用紙をご利用いただき、ご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

- ◆ 報告対象組織
竹田印刷株式会社
(一部、竹田印刷グループの情報も含まれています。)
- ◆ 報告対象期間
2016年4月1日～2017年3月31日
(一部、期間外の情報も含まれています。)
- ◆ 参考にしたガイドライン
環境省「環境報告ガイドライン2012年版」
「ISO26000(社会的責任に関する手引)」
- ◆ 発行時期
2017年6月
(次回発行予定2018年6月)
- ◆ 発行責任部署およびお問合せ先
竹田印刷株式会社
経営統括本部 CSR推進部
TEL:052-871-6460

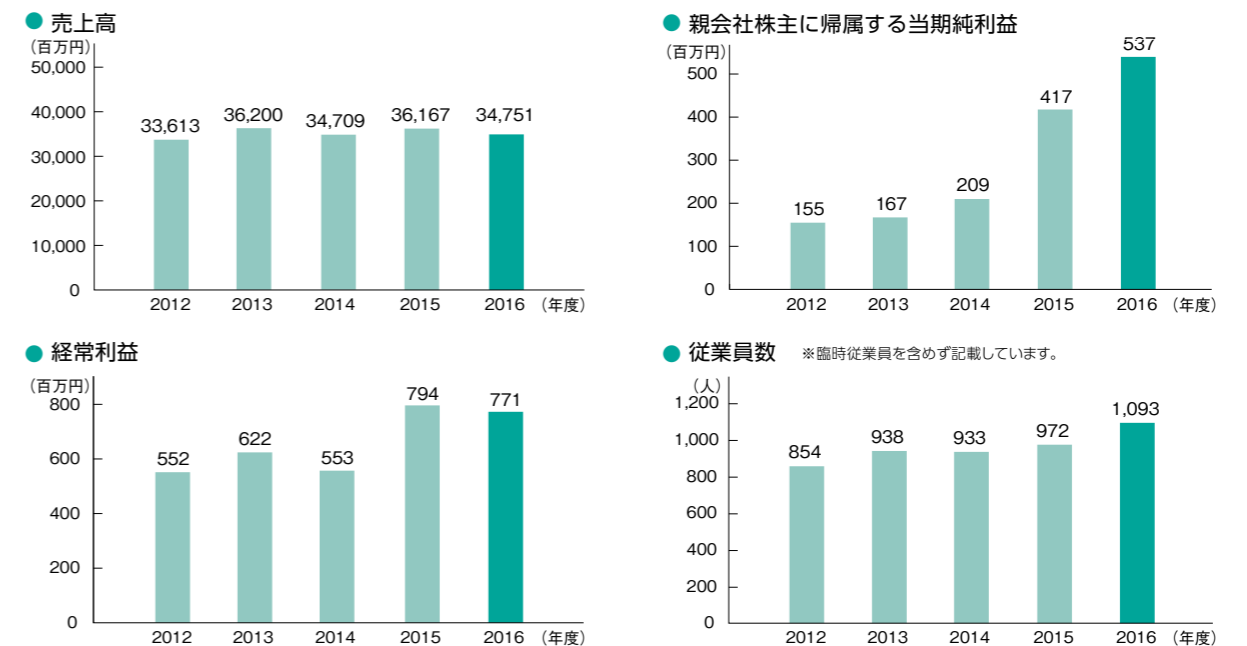
会社概要 Company Profile

竹田印刷グループネットワーク



会社概要	事業所	竹田印刷グループ
社名 竹田印刷株式会社 (英訳名 TAKEDA PRINTING CO.,LTD.)	■本社・中部事業部 本社工場 高辻工場 テクノセンター 物流センター スタジオACE1 小牧物流センター	株式会社光文堂 東海プリントメディア株式会社 株式会社プロセス・ラボ・ミクロン 東京プロセスサービス株式会社 日栄印刷紙工株式会社 株式会社光風企画 株式会社ウィルジャパン
本社 名古屋市昭和区白金一丁目11番10号	■関東事業部 越谷工場、鳩ヶ谷工場 品川オフィス	株式会社メディカルインテグレーション 株式会社トープロケミカル 上海竹田包装印務技術有限公司
創業年月 1924年(大正13年)1月	■関西事業部 太田工場、大阪オフィス	大連光華軟件技術有限公司 富来宝米可龍(蘇州)精密科技有限公司
設立年月日 1946年(昭和21年)11月16日		
資本金 19億3,792万円		
従業員 連結1,093名 単体581名 <small>※臨時従業員を含めず記載しています。</small>		
株式上市 名古屋証券取引所第二部(証券コード7875)		
単元株式数 100株		
決算期 3月31日		

業績概要(連結)



Top Message トップメッセージ

竹田印刷グループは、 その永続的発展のため 大胆かつ繊細に変化していきます

代表取締役社長 **山本 真一**



竹田印刷は、平成36年(2024年)3月期に創業100周年を迎えます。このたび当社におきましては、100周年およびさらにその先を見据えたグループ長期ビジョンとして、「お客様の圧倒的支持を得るワンストップソリューションを提供し、ロイヤルカスタマー比率を高め続ける」を制定いたしました。印刷物(紙媒体)が縮小を続け、価格も低位で推移する厳しい状況の中、電子媒体での対応能力のアップを含め、お客様のニーズに合った、そしてお客様の複数の課題を解決する、非常に価値が高いと感じていただけのソリューションをご提供し、お客様から一番に指名していただけるような会社になることを目指してまいります。

最近の、日本を含む世界の動きは、非常に激しく速くなっており、その中で竹田印刷グループが厳し

い競争を勝ち抜いて行くためには、世の中の動きに応じて変化し続けるお客様のニーズを、いち早くかつ確に把握して、必要なアクションをタイムリーに取らなければなりません。そのためには、発想や仕事のやり方を柔軟に変え、環境に適応していくことが求められます。竹田印刷グループは、それを実現し永続的に発展し続けるため、「大胆かつ繊細に」変化していきます。

お客様にご提供するソリューションの例として、印刷事業においては、印刷物を始めとする販促物の物流を基点として、お客様企業の販売促進活動を支援させていただく事業や、お客様が開催される販売促進イベントについて、企画・運営を含め一括で請負させていただく事業、などに取り組んでおります。物販事業についても、グループ会社の(株)光文堂

において、全国のお客様1社1社に対して、「お客様にとっての価値を創造する、向上させる」ための各種活動を行っております。

半導体関連マスク事業については、昨年11月にグループ会社に迎えた東京プロセスサービス(株)と、(株)プロセス・ラボ・ミクロン、竹田印刷(株)の3社によるシナジーの創出が課題です。具体的には、総合マスクメーカーとして、各社が持つ販売網を相互活用して販路拡大を行うこと、グループ全体最適の観点からの生産体制の見直しや、調達におけるスケールメリットの追求、経験・ノウハウ量、アイデア・発想量の増加による技術開発能力の向上、などに取り組んでまいります。

上記のすべての活動のベースとなるのは、「人」であります。社員が健康で高いモチベーションを持っ

て、困難な課題にも取り組む状況を作り出すために、昨年度に開始した女性をはじめ全社員活躍のための諸活動の更なる推進はもちろんのこと、教育訓練制度の充実や人事制度の見直しを進め、全社員が生き生きと働ける環境づくりを進めます。

CSRレポート2017には、当社グループの事業活動、各種CSR活動および各ステークホルダーとの関わりについて、できるだけ具体的に分かりやすく記載させていただいたつもりです。アンケート用紙をご準備いただきましたので、お気づきの点がございましたら、何なりとご指摘いただければ幸いです。

今後とも竹田印刷グループに対し、ご指導ご支援いただきますようよろしくお願い申し上げます。

竹田印刷のCSR経営

経営理念

Hard

活動を支えるすべての設備を合理化し、高品質と高付加価値を実現します。



Soft

高い技術力と情報力を活かした創意あふれる提案で、お客様の抱える課題を解決します。



Heart

お客様の感動やよろこびをいつも考え、心をこめた製品やサービスをお届けします。

5つのPolicy

- 1. Presentation**
お客様のさらにその先を見据えた **提案**
- 2. Flexible**
お客様のご要望を実現する **柔軟性**
- 3. After support**
本当に満足していただくための **アフターサポート**
- 4. Quality**
常に最高のクオリティを求める **品質**
- 5. Cost performance**
「ベストバランス」を実現する **コストパフォーマンス**

方針

TMS (竹田マネジメントシステム) 基本方針

- 品質マネジメントシステム (ISO9001 認証取得)
- 環境マネジメントシステム (ISO14001 認証取得)
- 情報セキュリティマネジメントシステム (ISO27001 認証取得)

個人情報保護方針 (JIS Q15001 認証取得)

行動規範

信頼される企業であり続けるために

1. コンプライアンス実現のために **「責任ある行動をしよう」**
2. 顧客満足の実現のために **「お客様に感謝しよう」**
3. 働きがいのある企業風土づくりのために **「仲良く朗らかに元気よく働こう」**
4. グループの総合力発揮とさらなる発展のために **「社運発展のためお互に協力しよう」**
5. よき企業市民となるために **「よき家庭の一員となろう」**

事業領域

- 印刷事業
- 半導体関連マスク事業
- 拡印刷事業
- 物販事業

ステークホルダーに対する基本的な考え方

お客様

お客様の真の課題解決につながる、満足度の高い製品やサービスを提供します。

株主・投資家

対話を大切にしながら、適時適切な情報開示に努めます。

サプライヤー

誠実で公正な取引を通じて、共存共栄を目指します。

社員

個々の能力を発揮しつつ、安心して働ける環境・制度を実現します。

地域社会

地域社会の一員として、社会貢献活動に積極的に取り組みます。

「もっとお客様のお役に立ちたい」 その思いが、事業領域を拡げています。

1924年(大正13年)に産声をあげた竹田印刷は、印刷技術を核として、多方面に事業を拡大してきました。すべては、お客様のニーズに幅広くお応えするためです。

印刷技術を活かした半導体関連各種マスクの設計・製造、ソフト開発、販売促進の企画から、マーケティング、広告制作にいたるまで。

さらには、物流サービス、印刷機械や印刷用資材の販売、事務用品の輸出入業務をも手がけ、成長を続けています。お客様、そしてその先のエンドユーザー様の顧客満足向上のために。私たちにできることは、まだまだあります。

印刷

- 多様なニーズに対応する
- 商業印刷** ポスター、カタログ、パンフレット、チラシ、会社案内、社内報、事業報告書など
 - 出版印刷** 新聞、雑誌、書籍、参考書など
 - 一般印刷** ビジネスフォーム印刷、事務用品印刷、一般証券印刷、包装資材印刷、紙器類およびラベル・シール印刷

グループ会社の広がり▼

- 商業印刷
- 日刊新聞印刷
- 紙器類の製造およびラベル・シール類の印刷
- 広告宣伝物の企画・デザイン
- 中国における包装紙器類の製造・販売
- 中国における印刷用データの制作

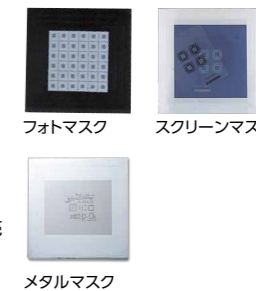


半導体関連マスク

- 高精細製版技術を応用した
- 半導体関連各種マスクの設計・製造・販売および機械機器類の販売**
 - 電子部品実装用各種マスクの製造およびこれに付随する業務**

グループ会社の広がり▼

- 半導体関連各種マスクの設計・製造・販売および機械機器類の販売
- 電子部品実装用各種マスクの製造およびこれに付随する業務
- 中国における半導体関連マスクの設計



潜在的なニーズを見据えた **拡印刷**

- | 文具・日用雑貨などのネット通販
- | 広告宣伝物の戦略的ロジスティクス

グループ会社の広がり▼

- 文具・日用雑貨などのネット通販
- 広告宣伝物のロジスティクス
- 商業施設メディアを活用した地域密着プロモーションの企画運営

大型印刷機から雑貨まで **物販**

- | 印刷機械・資材の仕入販売
- | 事務用品・雑貨等の企画・販売

グループ会社の広がり▼

- 印刷機械・資材の仕入・販売
- 事務用品・雑貨等の企画・販売



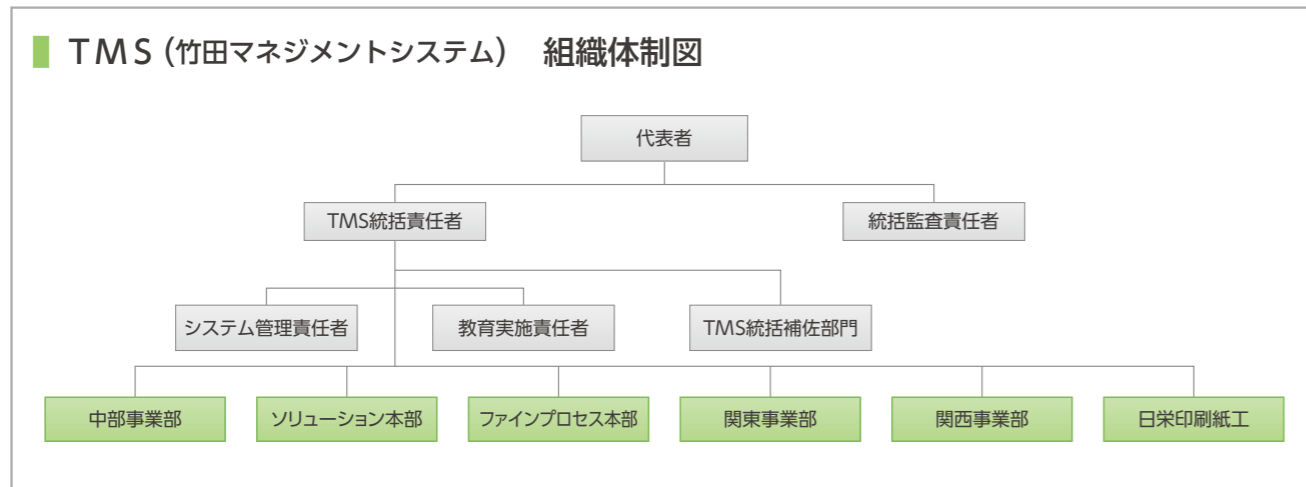
TMS (竹田マネジメントシステム)

竹田印刷では、2016年4月より、ISOの3つの規格9001(品質)14001(環境)27001(情報セキュリティ)及びJIS Q15001(個人情報保護)のマネジメントシステムを統括して、TMS(竹田マネジメントシステム)として運用をスタートしました。

中部・関東・関西の3地区を6ブロックに分割し、各ブロック単独でもマネジメントシステムが運用できる組織体制を構築しました。統括責任者の下、毎月開催される全体統括会議において、各ブロックからの報告と各責任者からの通達を行い、運用・管理をしています。



TMS (竹田マネジメントシステム) 組織体制図



竹田マネジメントシステム基本方針

私たちは、品質、環境、情報セキュリティの活動に対し、竹田マネジメントシステムを確立し、企業活動を通じて社会への貢献を目指します。

(a) 品質

いつもお客様の立場から企画・提案を考え、独自の手法で品質の向上並びにミスの削減に努め、お客様の期待に応えるファーストコールカンパニーを目指します。

(b) 環境

紙媒体とデジタル媒体の融合を推進し、限りある資源確保のために資材や生産エネルギーの有効的な活用と廃棄物のリデュース、リユース、リサイクルに努めます。そして、気候変動の緩和及び適応、並びに生物多様性及び生態系の保護を含め環境保全意識の向上を図り、環境への負荷を減らす取り組みを積極的に行い、環境汚染の予防に努めます。

(c) 情報セキュリティ

適用範囲の全ての情報資産を脅威から保護するため、マネジメントシステムを確立し、その導入、運用、監視、見直しを実施することでリスクを適切に管理します。

(d) 教育・訓練

竹田印刷(株)で働く又は竹田印刷(株)のために働くすべての人々に対して教育・訓練を定期的実施し、全ての人がレベルアップに取り組み、お客様をはじめ利害関係者の信頼に繋がります。

(e) 順守

竹田印刷(株)で働く又は竹田印刷(株)のために働くすべての人々は、関連する法規制、業界規範及び、お客様の要求事項を順守し、本方針を維持するために策定された手順に従い、行動規範とルールを守ります。

(f) 継続的改善

重大な障害または災害から事業活動が中断しないように、予防及び回復手順を策定し、定期的な見直しをいたします。また、適宜、環境の変化に応じた見直しを実施し、維持及び継続的に改善を行います。

(g) 周知

本方針を文書化し、啓発活動を行い、竹田印刷(株)で働く又は竹田印刷(株)のために働くすべての人々に周知するとともに社内外に公表します。

制定日 2016年4月1日
代表取締役副社長 木全 幸治

TMS (竹田マネジメントシステム) マネジメントプログラム (おもな取り組みと実績)

区分	目的・目標	2016年度取り組み	2016年度実績	掲載ページ
品質	強固な事業基盤作り	お客様の経営方針転換や景気変動に左右されない強固な事業基盤を確立する	お客様の経営方針転換に対し、適切に対応できた	特集2 (10・11P)
	外部委託先の管理	評価表や選定基準チェックシート、機密保持契約締結、懇談会等の実施による管理	「品質対策懇談会」を開催するなどして外部委託先とのコミュニケーションを図った	17P
環境	作業環境の整備	危険箇所・危険作業の改善 化学物質のリスクアセスメントの実施	労働安全衛生法改正による「化学物質640リスクアセスメント」に取り掛かった	27P
	省エネルギー推進	効率の良い、印刷機等の運用 消灯・エアコンの温度管理等で省エネ実現	各部署において省エネ目標を達成できた	28P
	廃棄物管理の徹底	分別の徹底、廃棄物処理業者への立入り調査	廃棄物処理業者への立入り調査を行った	27P
情報セキュリティ	情報セキュリティ事故0件	竹田マネジメントシステムの管理策を厳守し、漏えい、紛失等の情報セキュリティ事件・事故を0件に抑える	重大な情報セキュリティ事件・事故は発生していない	15P
	第三の事業 (BPO事業への挑戦等)	ISMS認証取得企業という社会的信頼を活かしBPO事業に挑戦する	ストレスチェックビジネス等BPO事業に挑戦することができた	5P
	社内ルール・法令順守	教育により、厳守する風土づくりを推進	年3回全社員教育を実施し、毎月自覚の確認テストを行うことで社員への意識づけができた	26P
	マネジメントシステムの統括	竹田マネジメントシステムを構築し、理解され実施されるものにする「守る規範」	竹田マネジメントシステムとして運用を開始したが、理解されづらい部分があった	6P 7P
社会貢献	職場環境の整備	女性社員が活躍できる職場環境の整備 全社員が働きがいのある職場にする	KAGUYAプロジェクト等で職場環境の改善を図った	特集1 (8・9P)
	地域社会への貢献	各地区(中部・関東・関西)で地域社会への貢献	熊本地震への支援活動やインターンシップの受入れ等で社会との関わりを深めた	25P
	環境美化	周辺清掃	毎月、会社周辺清掃を実施して環境美化に努めた	25P



全社員総活躍企業へ、始動!

KAGUYAプロジェクト

女性活躍推進法の制定をきっかけに始まったKAGUYAプロジェクト。しかし、“女性活躍”は入り口にすぎません。

このプロジェクトはあくまでも男性を含めた全社員を対象とした取り組みであり、両立支援や働く環境の改善によって、業務効率アップや生産性向上につなげ、会社全体を良い方向に変えていくという活動です。

KAGUYAの由来

しなやかで、真っ直ぐすくすくと成長する竹。その竹から生まれ、美しく輝く「かぐや姫」より名付けました。“女性も輝き成長することができる竹田印刷を目指す”という意味が込められています。ロゴは社内コンペにて制作されました。

2016年度の活動実績

KAGUYAプロジェクトの初年度のテーマは“課題認識”。社内の現状把握と改善点の洗い出しを行いました。同時に、育児休業規程や介護休業規程の充実等の両立支援にも注力しました。



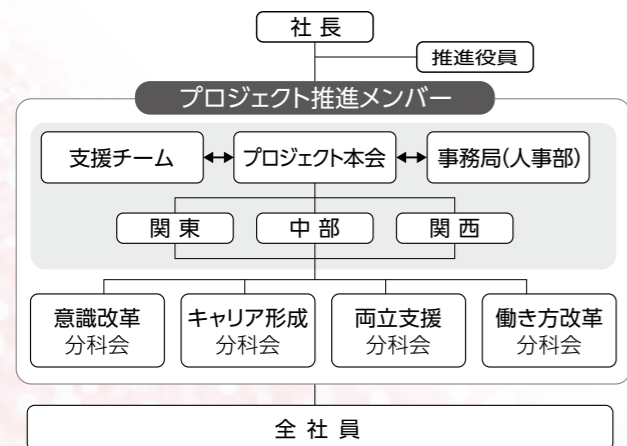
プロジェクト始動! 社員の意見を制度や研修に反映

2016年5月、プロジェクトリーダーに山本社長、全社員をプロジェクトのメンバーと位置付け発足。中心となる推進メンバーを全社員から募集しました。

多数の応募の中から、若手~中堅の男女21名を推進メンバーに選出。月に1回の定期ミーティングの他に4つの分科会に分かれ、当社の課題とその解決策について議論しています。

ミーティングや分科会で出された意見は、人事部と緊密に連携しながら、各種制度改正等に反映されています。

KAGUYAプロジェクト組織図



ワーク・ライフ・バランス実現へ。働き方改革の第一歩

2016年11月、中部・関東・関西全社一斉の初の試みとして、「ノー残業デー」をトライアル実施。推進メンバーが中心となり各職場での推進案や周知ポスターの作成等を行いました。

この結果を踏まえ、2017年2月からは毎月第3水曜日を「ノー残業デー」と定め、定期実施することになりました。単に早く帰るだけでなく、業務改善をして働き方を見直すことを目的としています。

現状把握のための「全社員アンケート」を実施

社員の意識調査、各職場の現状把握を目的に、当社では初めてとなる全社員を対象としたWEBアンケートを実施。アンケートの結果は推進メンバーで集計・分析を行いました。

社員のさまざまな思いや満足度、プロジェクトでの重点課題を知ることができ、今後の活動へつながる重要なアンケート実施となりました。



KAGUYAプロジェクト 3つの柱

女性活躍だけでなく、男女問わず全社員が活躍できる風土づくりの大切さを、マネジメント層を含めて全社員に浸透させていきます。

意識改革

全社員総活躍企業へ

ワーク・ライフ・バランス

両立支援(仕事とプライベート)、働き方改革(長時間残業を減らして効率アップ)の2本柱で進めます。

キャリア形成

新人研修、若手研修、課長職研修等の階層別教育を実施するとともに、長期的スパンでキャリアを考えられるようサポートします。

2017年4月~

次のステップへ!

2017年度以降はさらに活動を発展させ、働き方改革(残業時間削減)、人材育成等に広がっていきます。

- [2017年度実施予定]
- ・フレックス、在宅勤務等の柔軟な働き方を可能とする制度導入
- ・有給休暇取得促進
- ・若手社員へのキャリアアップ支援

「あいち女性輝きカンパニー」認証取得!!

2017年4月、KAGUYAプロジェクトの活動内容・実績が認められ、愛知県より、女性活躍推進に取組み社会的価値を有する企業として認証されました。



社員の両立をサポート

育児や介護をしながらでも安心して就業継続できるよう、両立支援分科会が中心となり、他社事例の調査、育児・介護中の方へのアンケート等を行い、制度の改正案の作成を行いました。

2017年1月の改定により、育児休業期間を最大、子が1歳6ヶ月に達した直後の4月20日まで取得可能とした等、法定以上の制度充実となりました。

キャリアアップを支援する取り組み

2017年2月、育休明け社員の復職支援として制度説明会と先輩ママ社員との交流会を開催。

また3月には総合職女性向けの「キャリアUPフォーラム」も開催。外部講師としてお招きしたオムロン株式会社様のダイバーシティ担当者の方よりお話を伺いました。参加した社員にとって、自分のキャリアについて深く考える機会となりました。



KAGUYAプロジェクト推進メンバーの声

関西事業部 製造本部 トータルソリューション部制作課 村田 優花里

私がKAGUYAプロジェクトに参加したのは、いろいろな方とコミュニケーションを図りたいと思ったことと、業務の改善を行う力になりたいと思ったことが理由でした。

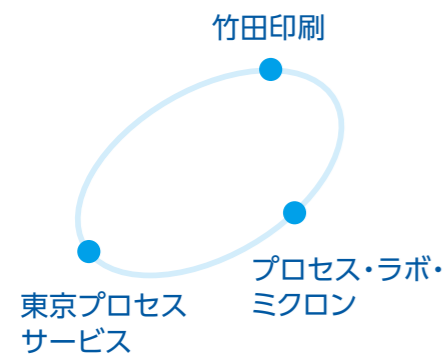
当初は右も左もわからない状態でしたが、会議を重ねていくうちに、「女性活躍だけでなく全社員活躍のために何ができるか?」「自分が考えられることは何か?」といったさまざまな問題が浮かび上がり、たくさんの刺激をもらうことができました。自分の意見をまとめて人に伝えるのは難しいですが、とてもやりがいのあるプロジェクトだと思います。



グループパワーで事業売上50億円へ。

半導体関連マスク事業

3つのグループ会社で あらゆる領域をカバー



竹田印刷は、2013年のプロセス・ラボ・ミクロンに続き、2016年11月に東京プロセスサービスを当社グループに迎えました。この3社が連携することにより、半導体関連マスク単体を扱う企業グループとして他に類のない、売上50億円規模となりました。スクリーンマスク、フォトマスク、メタルマスクのいずれにも高い対応力を実現し、さらにグレード面でもハイエンドまでの幅広い領域をカバーしました。営業面においても、プロセス・ラボ・ミクロンや東京プロセスサービスが有する国内外のネットワークを活用して販路拡大につなげるなど、統合効果を最大に発揮していきます。今後もさらなる技術力の拡充と事業拡大を目指していきます。



竹田印刷株式会社(テクノセンター)



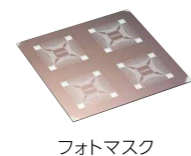
株式会社プロセス・ラボ・ミクロン(本社)



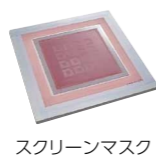
東京プロセスサービス株式会社
(本社/湘南藤沢センター)

東京プロセスサービス株式会社

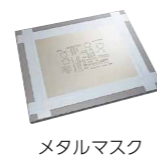
東京プロセスサービスは、精密電子工業向けのマスク専門メーカーとして大手の一角を占める企業で、技術力の高さには業界で定評があります。特にハイエンド分野に強く、今回のグループ会社化は当社にとっても技術力の大幅な向上につながりました。



フォトマスク



スクリーンマスク



メタルマスク



マイクロシープ

会社概要

東京プロセスサービス株式会社
〒252-0816 神奈川県藤沢市遠藤2012-4
設立：1968年5月
資本金：5,000万円
URL：http://www.topro.com

【事業拠点】

•本社/湘南藤沢センター
•北陸センター
•北陸技術開発センター
•大田マイクロセンター
•材料開発センター
•名古屋営業所



1987年、竹田印刷は高精細製版技術を活用して半導体関連各種マスクを設計・製造する事業部門を設立。

2013年にはプロセス・ラボ・ミクロン、2016年には東京プロセスサービスをグループ会社に迎え入れながら、拡印刷の急先鋒として着実に基幹事業へと成長しました。さらに、海外展開も積極的に進めており、事業売上は50億円に迫っています。

そして竹田印刷グループの視野は世界を目指す!

■本格的な海外展開スタートの年

2016年度は、当社の半導体関連マスク事業にとって海外展開へと大きく動き出した年となりました。それまで当社の海外取引先は台湾のみでしたが、この1年で中国、ベトナムへと海外におけるビジネスの場は格段に広がっていきました。

海外取引が増えるに従い、社内のスタッフも海外との取引に順応。営業の社員はほぼ毎月海外出張するほどになり、これまで語学に全く縁のなかった社員が、英語や中国語で電話対応をする場面も見られるようになりました。社員の視野や意識も海外へと大きく広がっています。

■グループ3社で積極的な展開

市場規模が大きい中国には、プロセス・ラボ・ミクロンの2つの中国拠点を足掛かりにして、現地にネットワーク構築を目指しています。

また、それぞれ独自に海外での営業活動を展開していたグループ3社が、今後は情報をシェアし、さまざまな国や地域に対してグループ力を活かしながらアプローチをしていくことで、よりきめ細かく、かつダイナミックな海外展開が図れると期待しています。さらなる海外市場へ向け、本格的な動きがこれから始まろうとしています。

■中国「NEPCON CHINA 2016」出展

当社の半導体関連マスク事業における海外取引拡大のきっかけとなったのが、2016年4月、中国上海市において開催された電子部品の国際的展示会「NEPCON CHINA 2016」です。プロセス・ラボ・ミクロンの子会社である富来宝米可龍(蘇州)精密科技有限公司と共同出展し、当社は主力商材であるガラスマスクを出展いたしました。

出展社数は約250社と盛況で、当社ブースにも多くの方にご訪問いただきました。

2017年8月には、中国深圳で開催される「NEPCON SOUTH CHINA 2017」に出展し、当社の海外展開にさらに弾みをつけていきます。



半導体関連マスク事業営業担当者の声

中部事業部 ファインプロセス本部 FP営業部2課 櫛木 彩也花

私は国内外のお客様の受注に関する業務を担当しています。納期の調整や社内手配が主ですが、中でも英語でのやり取りは、双方に間違いが起こらないように丁寧に行うことを心掛けています。

海外との取引では、言葉の壁よりも輸出入に関するルールやビジネス慣習の違いで戸惑うことが多く、また、ローカルサプライヤーとの価格・納期の競争にも難しさを感じます。しかし、当社がさらなる海外展開を目指す中で、その第一線の業務に携われていることに誇りを持っています。



TOPICS

1

全社

社内・社外に対して広報活動を強化

●ホームページをフルリニューアル

2016年4月にホームページをフルリニューアルしました。デザインを全面的に新しくしたほか、トップ画面はスマホ対応としました。当社の「ソリューション事例」を追加し、女性活躍推進ページを新設しました。



●採用リーフレットを刷新

2018年度新卒採用向けに、採用リーフレットをリニューアルしました。表面では経営理念やポリシーを伝え、中面にはさまざまなシーンで活躍する社員を掲載しています。



●社内報「広報TAKEDA」を再発刊

長年新年号のみの発行だった社内報「広報TAKEDA」を3ヶ月に一度の定期発刊としました。拡印刷によりさまざまな事業活動を行う当社では、社内の情報共有がますます重要になっており、「広報TAKEDA」を社員間のコミュニケーション促進と結束力を高めるツールとして活用していきます。



TOPICS

3

関東事業部

展示会に「フロートパック」を出展

2016年6月2日～3日、ポートメッセ名古屋にて開催された「中部ライフガードTEC2016～防災・減災・危機管理展～」に、72時間以上浮き続けることができる非常用リュックサック「フロートパック」を出展しました。当社ブースには2日間で約500名が来場し、テレビ取材も2社から受けるなど大きな関心が集まりました。

また、2016年8月25日～26日に宮城県仙台市で開催された、東日本大震災の教訓を防災関係者と市民が共有するイベント「震災対策技術展 東北」にも「フロートパック」を出展。仙台のテレビ局や新聞社に大きく取り上げられました。



TOPICS

4

関西事業部

防犯防災総合展 in KANSAI 2016に「コンパクトガイド」を出展

2016年6月9日～10日、インテックス大阪にて開催された展示会「防犯防災総合展 in KANSAI 2016」に出展しました。

会場全体では2日間で約18,000名が来場。当社ブースへは約300名の来場者があり、当社が出展した「防災コンパクトガイド」にも反響をいただきました。



TOPICS

2

中部事業部

メッセナゴヤ2016

2016年10月26日～29日、名古屋で毎年開催される日本最大級の異業種交流展示会「メッセナゴヤ」に今回も出展しました。今回は前回はさらに上回る1,400社以上の出展数があり、来場者は会場全体で約65,000名にのびりました。

当社のブースは、中部事業部若手営業社員が中心となって、企画コンセプト立案・ブース発注・ツール制作・アテンドなどの計画から運営まですべてを行いました。

「竹田ワンストップソリューション」をキーワードに、相談・企画提案、制作・印刷、そしてここ数年新しいソリューションとして展開しているロジスティクスやイベント運営業務等、すべてがワンストップで解決できる企業であることをアピールし、他社との違いを明確化しました。



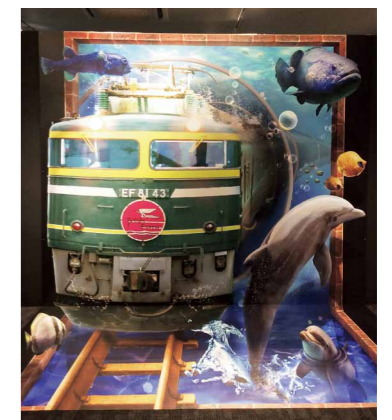
TOPICS

5

関西事業部

京都鉄道博物館「鉄道ワンダートリックアート展」が採用

京都鉄道博物館で2017年2月19日～4月16日まで、当社が企画した「鉄道ワンダートリックアート展」が採用されました。飛び出す新幹線や宇宙を駆けるSLなど、鉄道をメインテーマにして実際には起こりえない錯覚の世界を体験でき、ご家族で楽しく記念撮影もできる展示としました。開催期間中は、家族連れを中心に大勢の来場者でにぎわい大盛況でした。





基本的な考え方

竹田印刷グループは、企業の社会的責任を果たし持続的に成長するには、コーポレート・ガバナンスの強化・充実が重要だと考えています。そのため、経営の透明性と健全性の確保、迅速な意思決定と適切な事業遂行、法令順守と倫理の確保等に向けて、組織管理体制の整備に取り組んでいます。

また、コーポレートガバナンス・コードの各原則を当社の実状に即して対応し、現実的かつ実効性の高いコーポレート・ガバナンス体制の実現に取り組んでいます。

取締役会、役員体制

取締役会は社内取締役8名、社外取締役2名(2017年3月末時点)で構成しています。

社外取締役は、高い見識と豊富な経験を有し、独立役員の要件を満たしているため、一般株主と利益相反が生じる恐れがないと判断し、独立役員に指定しました。これにより、公正な経営監視機能の実現を図っています。

定時取締役会ほか、必要に応じて臨時取締役会を開催し、重要事項の決定並びに取締役の業務執行状況の監督等を行っています。業務運営に関しては、グループ全体の中期経営計画及び年度計画に基づき、各社が年度予算を策定し、進捗状況の確認をしています。

また当社では、執行役員制度を採用しています。さらに、主要グループ会社の代表取締役を主なメンバーとするグループ会社連絡会を原則月1回開催し、適宜経営状況のモニタリングを行っています。

監査役、監査体制

竹田印刷では、監査役3名(2017年3月末時点)のうち半数以上である2名の社外監査役を置き、取締役会の職務執行について監査しています。

社外監査役は、高い見識と豊富な経験を有し、独立役員の要件を満たしているため、一般株主と利益相反が生じる恐れがないと判断し、独立役員に指定しました。これにより監査役会の独立性と、公正な経営監視機能の実現を図っています。

さらに社長直轄の内部監査室(2017年3月末時点専従者2名)は、各事業部門の業務処理の適切性等を定期的に監査しており、監査役会と連携しながらコンプライアンスの徹底を図っています。

内部統制システム

「内部統制システムの基本方針」、「財務報告にかかる内部統制の方針」に従い、適正な業務遂行の実現を図るため、全社統制・業務処理統制の仕組みの文書化、リスクの統括的な管理体制、情報セキュリティ体制等を整備・確立し、厳格に運用しています。

財務報告に係る内部統制の有効性評価のため、グループ全体での内部統制の運用改善活動を推進しています。

コンプライアンス

「竹田印刷グループ行動規範」の制定、コンプライアンスに関する研修の継続的な実施等により、全社的にコンプライアンス(法令順守)に対する意識の向上、浸透を図っています。また「公益通報処理制度」、「内部情報管理規程」に基づき、企業倫理・法令順守を徹底しています。

また、反社会的勢力との関わりを一切排除するため、お客様やサプライヤーの皆様等との間で各種契約書や覚書を取り交わしているほか、2016年度には新たに「反社会的勢力対応規程」を定めました。

さらにインサイダー取引に関する資料「インサイダー取引とは？」を2016年度に社員に配付し、違法行為の未然防止を図っています。

リスクマネジメント

「リスク管理規程」に基づき設置しているリスク管理委員会では、グループ全体のリスク(コンプライアンス、経営戦略、業務運営、環境、災害等)を網羅的・統括的に管理するとともに、「関係会社分科会」「営業分科会」「IT分科会」等の分科会を設けて、組織や業務内容により異なるリスクを洗い出し、低減する活動を行っています。

事業継続計画(BCP)への取り組み

災害などの発生時でも、社員及びその家族の安全を守り、迅速な復旧を図って重要業務を継続するために事業継続計画(BCP)を策定しています。

災害時を想定し、緊急対策本部組織や、生産・顧客ごとの対応ステップ等について詳細で現実的な計画を定めているほか、2016年度には災害時や緊急時で電

話がつながりにくい場合にも利用できるインターネットを介した社員の安否確認システムを導入し、運用しています。

情報セキュリティ

全社員に配付した「電子情報セキュリティハンドブック(第2版)」の発行や、社内報「広報TAKEDA」への「情報セキュリティ通信」掲載、ダミーメール訓練等により、情報セキュリティに対する社員の注意喚起に努めています。

また、ICカードによる入退システムを順次増設しています。

マイナンバーや特定個人情報等に関しては、「個人番号及び特定個人情報の適正な取扱いに関する基本方針」や「安全管理措置のための取扱規程」等を定め、適切に管理しています。



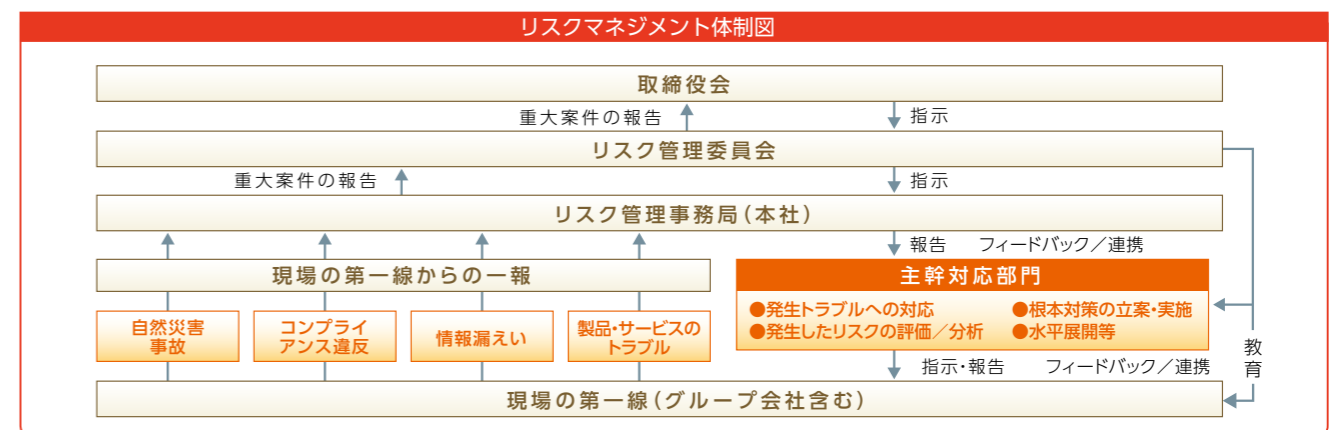
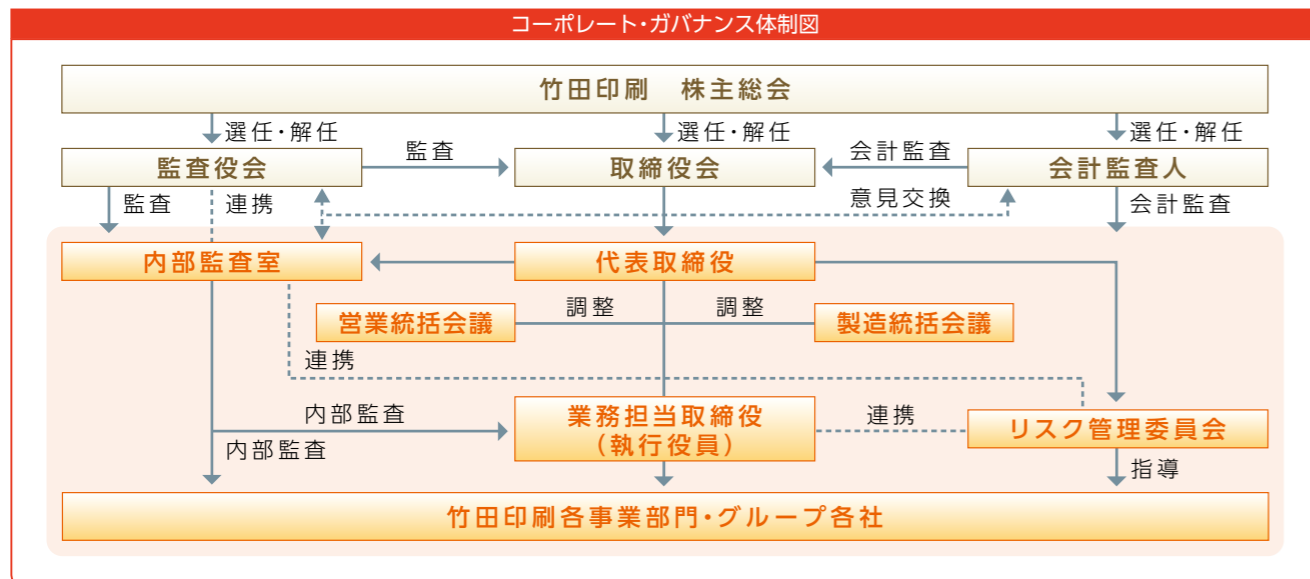
2016年に発行した第2版

個人情報保護

竹田印刷は個人情報の保護を目的として「個人情報保護方針」を制定し、JIS Q 15001に基づく個人情報保護マネジメントシステムを構築・運用しています。2005年からは「プライバシーマーク」の認定を受けています。

知的財産に関する活動

竹田印刷には、お客様の知的財産を取り扱い管理する業務が多くあります。それらを当社の営業活動で紹介したり、広告宣伝物に展開したりする場合に、お客様の知的財産権を侵すことのないように事前にチェックする仕組みを構築しています。また、社員向けに発行している情報ツールにて常に知的財産権に対する注意喚起を行っています。



IR活動の基本的な考え方

竹田印刷グループでは、適時適切な情報開示の重要性を認識し、関連法規に従って主体的・継続的なIR活動に取り組んでいます。IRイベントへ定期的に参加する等、さまざまな場とメディアを利用して株主・投資家の皆様と対話を図り、当社の経営状況、成長戦略等についてプレゼンテーションをしています。

株主・投資家の皆様には適時開示情報を含めた有用な情報を当社Webサイトでも公開しています。

ホームページアドレス

<http://www.takeda-prn.co.jp/investor/>

利益分配に関する基本方針

竹田印刷グループは、株主の皆様への安定的な配当を基本としながら、業績、配当性向、内部留保等を総合的に勘案し、配当を決定しています。中間配当と期末配当の年2回の配当を基本方針とし、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会により決定します。

尚、2015年度の期末配当金は、1株につき8円(中間配当金5円を加えた年間13円)とする議案が2016年6月28日の定時株主総会において決議され、実施されました。

株主優待

竹田印刷グループは株主優待として、2016年は、3月末日で1,000株以上保有の株主様に、新潟県魚沼産コシヒカリの新米を収穫に合わせて10月末にお届けし、9月末日で100株以上保有の株主様には、自社製美術カレンダー「徳川美術館の名品」をお届けしました。

この美術カレンダーは、徳川美術館様のご理解により当社にて企画・制作しているもので、全国カレンダー展において数々の入賞を果たしています。

名証IRエキスポ

2016年7月15日～16日に開催された名証IRエキスポ2016(会場：名古屋吹上ホール、主催：名古屋証券取引所)に出展しました。イギリスのEU離脱に伴う円高の進行や株価の下落等による景気減速が心配される中でしたが、昨年を上回る120社が出展。「優待名人」こと桐谷広人氏や長年地元中日ドラゴンズで活躍した山本昌氏が講演を行うなど、会場は大変活気にあふれていました。

来場者数は2日間で8,200名を記録し、当社ブースにも多くの皆様にお越しいただきました。

尚、集計アンケート枚数(500枚)に200円を乗じた100,000円を、2016年4月に発生した熊本地震への義捐金として、日本赤十字社を通じて寄付いたしました。



来場者の皆様へ事業内容や今後の見通しについて説明しました
当社ブースには、今年も徳川美術館様にご協力いただきました



100株以上保有の株主様への優待として、当社製作美術カレンダー「徳川美術館の名品」をご提供



1,000株以上保有の株主様への優待として、新潟県魚沼産コシヒカリの新米をお届け



サプライヤーの皆様との関係の基本的な考え方

竹田印刷の事業活動及び社会的責任の遂行には、お取引いただいているサプライヤーの皆様のご協力が不可欠です。紙・インキ・フィルム等の資材や、印刷機器、印刷・製本等を取り扱うさまざまなサプライヤーの皆様との間で、当社は「CSR調達ガイドライン」を定めています。この調達ガイドラインには「コンプライアンスの順守」「基本的人権の尊重」「環境保全」「安全衛生」「適切な情報管理」「QCDと顧客満足の向上」「腐敗防止」の7つの項目を設定しており、サプライヤーの皆様にも順守していただくようお願いしています。また、調達ガイドラインに基づき、「購買及び外部提供者管理規定」を設け、公正に審査・選定・管理をし、適正な購買・取引を行うよう努めています。

サプライヤーの皆様とは対等で公正な取引のもと、技術・情報の相互交流等による信頼関係を基本として良好なパートナーシップを構築し、品質向上・環境対策・コスト削減といった共通の目的・目標に対して改善策を推進して共存共栄を目指しています。

また、環境対策として当社で進めている環境負荷の少ないインキや印刷方法に関しても、サプライヤーの皆様と連携しながら最新の技術・製品の導入を促進しています。

製本分科会

関東事業部では、毎年4月、6月、8月、10月、12月に製本関連のサプライヤー様にお集まりいただいて、製本分科会を開催。営業部と生産管理部及び品質技術部が中心となり、過去のトラブルや直近の案件に対して、経験や知識を有するサプライヤー様と意見交換をしています。

また年度始めには、竹田印刷グループの「CSR調達ガイドライン」を配付し、品質面だけではなく、環境保全や安全衛生、適切な情報管理などの徹底をお願いしています。

工場オペレーターインタビュー

関東事業部では、定期的にサプライヤー様や竹田印刷越谷工場のオペレーターにインタビューを行い、手順書通りに進められているか、抜き取り検査や刷り出し確認が実施されているかをチェックしています。

また製造部門から、印刷原稿の作り方やお客様要求事項の確認、作業指示書の誤表記などがフィードバックされ、営業・管理部門・製造部門の意見交換の場となっています。



工場パトロールの様子

抜き取り検査の様子

品質対策懇談会

2016年9月、中部事業部において、サプライヤー様(印刷・製本・加工・物流関係)の8社12名に参加いただき、「品質対策懇談会」を開催しました。この懇談会は、サプライヤー様との品質向上とミス防止のための情報共有や水平展開、意見交換等を目的に、新たに開催されたものです。当社とサプライヤー様が「常に高品質な製品をお客様にお届けする」という共通意識を持つことが重要であると再認識することができ、「竹田品質」をともにつくり上げていただくことをお願いしました。

今後も定期的に「品質対策懇談会」を開催し、工程間での品質体制や改善要望などの情報共有化をし、さらなる品質向上と最適化に努めていきます。



品質対策懇談会の様子



顧客満足向上のための 継続的な改善

竹田印刷は、顧客満足の根本はお客様の抱える課題を解決することと考え、その基盤ともいべき製品・サービスの質の向上に万全を期しています。

お客様のニーズを知るために、これまでは事業部ごとにアンケート項目を設定し満足度調査を実施していましたが、2016年度は全社でアンケート項目を統一し、お客様から直接いただいたご意見を相互比較できるようにしました。

このようにしていただいた貴重なご意見やご要望を竹田マネジメントシステムの活動に組み入れ、さらなる顧客満足度向上に役立てています。

お客様満足度アンケート項目(抜粋)

- **提案力**
企画提案内容は的確ですか？
- **営業対応**
日常の対応(コミュニケーション)は適切ですか？
- **情報管理**
個人情報の取り扱いは安心できますか？
- **品質・納期**
製品・サービスの品質は満足ですか？

お客様のパートナー企業を 目指して

竹田印刷は、「お客様から信頼されるパートナーとなること」を基本方針として、ご発注いただいた案件への真摯な対応はもちろん、それ以外のさまざまなご要望にもお応えしています。

お客様向け勉強会の開催

お客様の要望にお応えし、デザインやDTP用アプリケーション、製版・印刷工程等の勉強会・説明会を実施しています。デジタル化されたデータはどのような特性があり、どうすれば印刷物以外のメディアへ流用できるのか、印刷発注時にはどのようなことに注意したら効率よく制作進行できるのか、といった内容について、新しく担当になられた方にも分かりやすく説明させていただいています。

工場見学受け入れ

新入社員や新しく着任されたご担当者の研修として、製版工程や印刷・製本工程等の工場見学を受け入れています。

中部事業部では枚葉印刷機、輪転印刷機等の多種多様な印刷設備を、グループ会社の東海プリントメディアでは新聞印刷の様子を見学いただけます。

学校法人からの依頼対応

専門学校や大学等のお客様には、デザイン関連の課外授業、印刷物制作の流れを見ていただく工場見学、就職活動中の学生を対象にしたキャリアアップ講座等に協力しています。2016年には、実際に使用することを想定したバナーデザインを課題にするなど、実践的な授業を行いました。

専門学校産学連携授業

毎年、デザイン系専門学校の依頼に応じ、課外授業や「学校関係者評価委員会」に、当社の営業及び制作ディレクターが参加。企業側の立場として意見交換をし、学校のカリキュラムの内容向上に協力させていただいています。



中部事業部で実施された産学連携授業

お客様より感謝状

大阪に本社を置く国内唯一の高圧洗浄機メーカー「スーパー工業株式会社」様の創立60周年記念式典において、感謝状を授与されました。

お取引を開始した当初はカタログ等の印刷物が主な内容でしたが、現在はWEB関連のプロモーションをメインとしたお取引に変遷。お客様と関西事業部トータルソリューション部が1つのチームのようになり、課題解決に取り組んでいます。お客様の想いや課題にお応えしていく姿勢と実績が、今回の感謝状の授与につながったと考えています。



UDガイドライン発行

近年、広報ツールのユニバーサルデザインが求められています。そのような流れに対応し、竹田印刷では「ユニバーサルデザイン・ガイドライン」として2016年9月にまとめました。

ガイドラインには、「文字」「色」だけではなく、つい習慣的に使ってしまう不適切なワード(父兄、サラリーマン、住民の足など)や、イラスト表現の注意点など広い範囲に対応しました。

今後、営業活動に使用するとともに、外部協力制作会社への依頼時にも利用し、竹田印刷の制作物全体のユニバーサルデザイン対応レベルを向上させていきます。



VOICE



コミュニケーションを大切に、グローバルに活躍する人材へ。

関東事業部 営業本部
営業第2部2課
2007年4月入社

宮崎 充

現在は営業として主に住宅設備機器メーカーを担当しています。私は、お客様の本質的な課題をつかみ、解決方法を提供するためにはコミュニケーションが重要だと考えています。コミュニケーションとは、ただたくさん話をするという意味ではなく、どれだけ本質的な課題について共有し話せるかです。例えばお客様から「女性向けの販促用チラシを作りたい」という要望があったとしても、目的、年齢層、使用シーンによっては印刷物ではなく動画の方が最大の効果が得られるなら、「目的に沿った最適な手段は動画ではないでしょうか?」と提案できる営業でありたいと考えています。

竹田印刷では、10年、20年先を見越した新しい事業が展開されています。中堅世代となってきた私の次のビジョンは、グローバルに活躍することです。具体的には日本製品・文化・サービスを世界に流通させ、世界の消費者の生活に貢献したいと思っています。



職場環境に対する基本的な考え方

社員が常に意欲をもって働くことができるように、社員やその家族の方々の生活をサポートする福利厚生に関する諸制度や、社員一人ひとりが能力向上を図ることができる制度を整えています。

社員を支える各種制度

人事関連制度 (人事評価・マイスター認定・資格取得)

人事評価では、役割ごとのコース・等級設定と、階層ごとの基準設定に加え、成績・サービス・能力の個人評価を取り入れ、社員の総合力を伸ばしています。

また、特定業務での技能保有者に与えるマイスター制度や、能力向上・自己啓発を促進する資格取得奨励制度を設け、業務技能とモチベーションの向上を図っています。

社員表彰制度

会社への貢献に報い、さらなる意欲を喚起するため、年1回社員表彰を行っています。長年社業発展に尽くした社員には永年勤続表彰を、前年度の会社の業績等に特に貢献した社員には優良社員表彰をしています。



優良社員表彰者との記念写真(関東事業部)

改善提案制度

業務におけるさまざまな問題点や改善点について、各部門で改善提案活動を行い、改善提案委員会で審査の上、優秀な提案については表彰しています。2016年度は943件の改善案が提出されました。

また、半導体関連マスク部門では毎年3月に「QCサークル活動発表会」を実施しています。

豊かな生活をサポートする福利厚生

竹田印刷では、社員やその家族の方々が豊かで活気ある生活を送ることができるように、さまざまな福利厚生制度を充実させています。

主な福利厚生

- 社会保険・労働保険
- 慶弔見舞金制度
- 退職金制度
- 従業員持株会制度
- リゾートクラブ・スポーツクラブの法人利用
- スポーツ・文化イベント等の鑑賞券・招待券の配付
- 社内クラブ活動の補助 など

人材育成に関する活動

竹田印刷では人材育成の一環として、さまざまな研修や勉強会を実施しています。

営業研修、勉強会の実施

竹田印刷は、営業力の向上を図るための勉強会「竹田アカデミー」を毎週定期的で開催しています。

具体的には、実際に受注につながった「成功事例発表会」、社内専門スタッフによる「社内スタッフ勉強会」、協力会社ブレインの外部講師による勉強会のほか、各プロジェクトリーダーによる「プロジェクト報告会」やベテラン社員主催によるテーマを決めたシンポジウム等を開催しています。

近年では、お客様のニーズに即した総合的なソリューション提案が不可欠であり、これに対応した営業スキルの向上が販売力アップの大きな鍵となっています。今後も変化し続ける市場やお客様の状況を的確に捉え、さまざまな研修・勉強会を開催していく計画です。



勉強会の様子

VOICE ())

営業勉強会「竹田アカデミー」を受講した社員の声

中部事業部 営業本部
営業第1部1課
2015年4月入社

丸山 雅史



竹田アカデミーでは同じ内容の勉強会が2回開催されるので、スケジュール調整ができて受講しやすかったです。事例発表会ではお客様の業種やニーズに沿ったさまざまなアプローチ方法や提案内容などを聞くことができ参考になりました。また、営業が知っておくべき専門知識や新しい情報について、製造や経理担当等から直接解説してもらえるので、日々の営業活動に幅が生まれてきました。今後はマーケティングや販促企画、イベントプロモーションに関する勉強会にも参加して自分のスキルアップにつなげていきたいと思っています。

社員向け英会話講座 どっとシャベール

中部事業部では2015年度から社員能力開発支援として社員向け英会話講座「どっとシャベール」を開催しています。今年度は、2期・3期クラスが行われるとともに昨年度の第1期クラスメンバーからの選抜によるレベルアップクラスも開講しました。

業務のグローバル化に対応していくため、英語を勉強する姿勢や意識をさらに高め、海外業務に対応できる人材育成を図るとともに、社員の能力開発、モチベーションアップにつながることを期待しています。



どっとシャベールの受講者・講師と修了記念撮影

新人研修(フォローアップ研修)

新入社員に対しては、新人研修を実施しています。当社の規則・制度・安全衛生・事業の基礎知識等を学ぶほか、外部講師を招いて社会人としての心構えや仕事の正しい進め方を身につけます。

さらに、入社後5ヶ月目前後にフォローアップ研修を実施します。今年度は2016年8月に実施し、入社からこれまでを振り返って、社会人としての行動や心構えを再確認しました。お互いの近況報告を交えながら活発な意見を交わし、入社時とは見違えるほど成長が感じられました。

VOICE ())

フォローアップ研修を受けた社員の声

ソリューション本部 制作第2部
制作課(関東事業部勤務)
2016年4月入社

森本 ゆかり



研修では入社後の数ヶ月間を振り返るとともに、自身の課題や悩みの根本を見つけ出してグループ内で発表し、原因や解決方法などをディスカッションしました。人前に立つことや話すことが苦手な私は、同期の振り返りや研修後の取り組みを聞き、「このままではいけない!」と刺激を受け、自ら希望して同期全員の前で代表発表をしました。自身の課題に改めて向き合い、達成感を得られた研修でした。今後も基本を忘れずに、お客様の求めているものを提供できるような仕事をしていきたいです。

フットサル部「FCカエル」が発足

2016年に竹田印刷グループのフットサル部が新たに発足しました。経験者、未経験者問わず、運動が好きな若手社員が集まり、毎月2回対外試合を行い、年2回大きな大会に参加しています。当社は福利厚生の一環として活動を支援しています。





労働安全に対する基本的な考え方

竹田印刷では、社員の安全と健康に配慮し、労働災害の防止や心身の健康の維持増進に努めています。

災害防止への取り組み

鳩ヶ谷工場、無労災3,000日達成【関東事業部】

2016年6月、鳩ヶ谷工場は無労災継続3,000日を達成しました。引き続き4,000日に向けて事故・ケガのないように努めます。



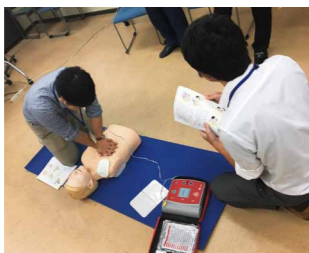
防災訓練を実施【関東事業部】

2016年10月、関東事業部で防災訓練が実施されました。参加者は避難訓練を行うとともに、消火器を使った消火訓練も体験しました。



普通救命講習【関西事業部】

2016年10月に関西事業部にて「普通救命講習」が開催され、18名が参加（うちグループ会社・日栄印刷紙工より4名）しました。八尾市消防署の隊員から、救急救命の基礎知識や予防救急、救命措置（心肺蘇生法・AEDの使用法）を学びました。



交通安全への取り組み

交通安全講習会を開催【中部事業部】

2016年10月、中部事業部で昭和警察署交通課様による交通安全講習会が開催され、約80名の社員が参

加しました。講習では交差点での車や自転車が注意すべき点などを中心にご指導いただきました。



優良運転者表彰【関東事業部】

2016年11月、滝野川警察署様より優良運転者として、当社業務営業部の森下副部長と神谷担当副部長が表彰されました。



安全衛生への取り組み

ストレスチェック実施

労働安全衛生法が改正され、労働者が50人以上いる事業所では、年1回ストレスチェックの実施が義務付けられました。当社では安全衛生委員会制定の「ストレスチェック実施内規」に基づいて、2016年11月～12月に各事業部でストレスチェックを実施しました。



ストレスチェックに関する説明会(中部事業部)

メンタルヘルス相談窓口を設置

日常生活におけるさまざまな不安や悩みについて、気軽に相談できる窓口を設置しています。外部の専門機関に委託し、プライバシーは厳守しています。相談は無料で、家族の利用も可能です。

ハラスメント相談窓口を設置

竹田印刷は2016年12月に「ハラスメント防止規程」を定め、パワハラ、セクハラに関する相談・苦情等に対応する窓口を設置しました。専任の担当者がプライバシーの保護に十分努めた上で迅速に対応します。



ダイバーシティの推進

ダイバーシティは、多様な人材を積極的に活用して、能力を最大限に発揮させようという考え方です。当社では、2016年4月の女性活躍推進法の施行に伴い、女性の活躍を加速させるとともに、男性を含めた多様な社員全てがその能力を最大限に発揮してイキイキと働けるように制度や意識の改革に取り組み、積極的にダイバーシティを推進しています。

障がい者雇用の状況

さまざまな障がいを持つ方々にとって、多様な個性や能力を発揮して就労できることが社会的自立を支援することと考え、障がい者雇用に取り組んでいます。

定年退職者再雇用の状況

定年後もさまざまな分野で高い技術や能力を有している「人財」が、長年の経験や当社で培った技術・能力を次の世代に継承していくことを主な目的として再雇用制度を整えています。

ワーク・ライフ・バランスに対する基本的な考え方

社員が充実したワーク・ライフ・バランスを保つことができるように、「業務にメリハリを持ち、社員同士や家族とのコミュニケーションを深める機会を増やす」ことを方針として、働き方の見直しや長時間労働の削減等に取り組んでいます。

月一度のノー残業デーを設定

2016年11月、中部・関東・関西全社一斉の初の試みとして「ノー残業デー」をトライアル実施いたしました。多くの社員が前向きに取り組み、当社全体の達成率は84%でした。「働き方にメリハリが付き、生産性向上につながった」「時間を意識して働く良ききっかけになった」というプラスの意見とともに、各部門との連携・協力など課題も発見できました。これらの結果をふまえ、2017年2月より毎月第3水曜日を「ノー残業デー」と制定し、定期的を実施しています。

全社員アンケート2016

2016年11月に当社初となる「全社員アンケート」を行い、全社員の約7割にあたる424名から回答をいただきました。この結果を受け、今後はKAGUYAプロジェクトが中心となって、以下の点を2017年度の重点項目として取り組んでいきます。

- ① 長時間労働の削減と有給休暇の取得促進
- ② 誰もがキャリアアップを実感できる教育体制の確立
- ③ プライベートと仕事の両立ができる環境と制度の充実

ワーク・ライフ・バランスを支える制度

社員のワーク・ライフ・バランス充実のために、さまざまな制度や社内規程を設けています。今後も、仕事と育児・介護、あるいは仕事とプライベートを両立しながら、全社員がイキイキと活躍できる制度や体制づくりに向けて、さらなる充実を図ってまいります。

妊娠中の女性社員に対しては、本人と相談の上、作業制限・勤務時間短縮等を行うほか、時差出勤や休憩時間延長・回数増加、そして保健指導や健康診断時間の確保等の対応策を考慮できるよう就業規則で定めています。

また、育児休業明けの社員のための復職支援の一環として、仕事と育児の両立方法のアドバイスや意見交換ができる交流会などを開催していきます。



育児中社員交流会



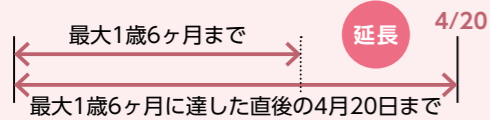
育児休業制度

育児をしながら就業を継続できるよう育児休業規程を定めています。2017年1月の改定により、法定を超える充実した制度を整備しました。

【育児休業規程の改定のポイント】

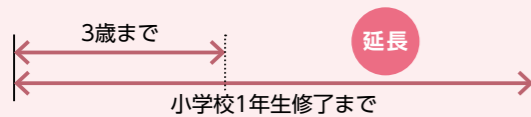
- 有期契約労働者の取得要件の緩和
- 育児休業期間の延長

「最大1歳6ヶ月まで」から、保育園の空きがない場合は「最大1歳6ヶ月に達した直後の4月20日まで」に延長



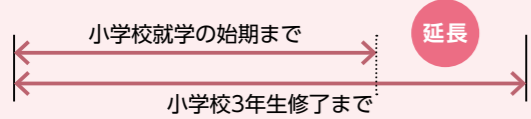
- 育児短時間勤務期間等の適用期間の延長

「3歳まで」から、「小学校1年生修了まで」に延長



- 深夜勤務の制限、時間外労働の制限、看護休暇の期間延長

「小学校就学の始期まで」から、「小学校3年生修了まで」に延長



- 就業場所に関する配慮の条項を追加
- 育児に関するハラスメント防止の条項を追加

〈出産休業・育児休業の取得状況〉

制度名/年度	2014	2015	2016
産休・育児休業	2件	7件	4件

VOICE

ワーキングマザーの声

関西事業部 製造本部
トータルソリューション部
制作課

西島 亜希子



私は1年1ヶ月の育児休業後、3歳の息子の子育てをしながら、出産前と同じDTPデザイン制作職として働いています。復帰後の短時間勤務は、自身の仕事の優先順位の付け方や効率化はもちろん、部署内の協力体制と相談に乗ってくれる上司のおかげで無理なく働いています。子育ては自分だけが頑張りすぎないようにと、同じ職場に勤める夫が家事全般や育児に積極的に協力してくれています。今後は育児と両立できる在宅勤務や、男性も育児支援制度を活用しやすい環境づくりが進むことを願っています。

介護休業制度

介護が必要な家族がいる社員に対して、介護離職を防止し、仕事と介護の両立を可能とするための制度を整備しています。2017年1月よりさらに利用しやすく改定しました。

【介護休業規程の改定のポイント】

- 対象となる家族の範囲を拡大
- 介護休業の分割取得を可能に
- 介護短時間勤務の期間延長
- 介護のための所定外労働免除の条項を追加
- 就業場所に関する配慮の条項を追加
- 介護に関するハラスメント防止の条項を追加

年次有給休暇取得推進

有給休暇、メモリアル休暇(対象者に四半期ごとに通知)について積極的な取得を促すとともに、気兼ねなく取得しやすい職場風土の醸成に努めています。



2016年熊本地震への支援活動

2016年熊本地震について、名古屋商工会議所への義捐金に協賛いたしました。義捐金は、復旧・復興に向けて商工会議所・連合会が実施する、被災事業者の事業再開、被災商工会議所の再建、観光回復等の事業に活用されます。



熊本復興支援ノベルティ

この他の復興支援として、熊本復興支援ノベルティ(フジパンビ黒糖ドーナツ棒)に協賛いたしました。

インターンシップ(就業体験)受け入れ

竹田印刷では各学校からのご依頼のもと、就業体験(インターンシップ)を実施しています。これは採用を目的としない教育活動の一環として行っており、2016年度は高校・専門学校・大学等から9名の学生を受け入れさせていただきました。製造や営業の現場での業務体験に加え、情報管理に対する意識や、社会人として必要な考え方・姿勢等について社員から学んでいただきました。



就業体験の様子

滝野川警察署管内で春・秋の交通安全活動に参加

関東事業部では、毎年春と秋の交通安全活動に参加しています。1日目は、駒込霜降橋交差点にて、黄色い旗を振りながら小学生を見守ったり、お年寄りの方たちの交差点横断等をサポートしています。

2日目は、飛鳥山交差点で、滝野川警察署員や安全協会のみなさんと「飲酒運転撲滅」のビラを配布しています。

少しでも交通事故撲滅のお手伝いができればと、社員はみな積極的に参加しています。



交差点での旗振りの様子

周辺清掃・地域清掃

竹田印刷では、毎月1回、会社周辺の清掃活動を実施しています。特別養護老人ホームや幼稚園が近隣にあるところでは、その周辺にも力を入れ、早朝清掃活動を実施しています。

名古屋少年少女発明クラブ支援

「名古屋少年少女発明クラブ」は次世代産業の人材育成のために2007年に設立し、中部事業部ではその趣旨・活動に賛同して設立当初から支援しております。名古屋市科学館やデリバリー教室で行われる「ものづくり教室事業」、ロボットの組立・プログラミングを行う「ロボット体験事業」等、小中学生の子どもたちが学校や家庭では体験できないことを楽しみながら学んでいます。

2017年7月には名古屋で「ロボカップ世界大会」が開催されますので、今後も地元はもちろん世界の産業界を担う次世代づくりに協力していきます。

名古屋第二赤十字病院へ寄付

竹田印刷では地域医療活動の支援を目的に、本社・中部事業部と同区に所在する「名古屋第二赤十字病院」へ毎年寄付を行っております。

開設100年を超える同病院は、国が推進する地域医療ビジョン政策で中心的な役割を担うほか、赤十字病院として災害医療や国際救援も行っております。当社は上場した1995年以来、毎年支援を続けており、日本赤十字社様から感謝状をいただいております。





マネジメントシステムの状況

監査の状況

マネジメントシステムが適切に運用され、維持されていることを確認するため、「内部監査規定」を定め、定期的に内部監査を行っています。内部監査は原則として年2回行っていますが、重要な不適合が発生する等、統括監査責任者が必要と認めた場合には臨時に実施することになっています。

内部監査の監査結果状況

2016年度の内部監査の結果、全社合わせて「不適合」5件と「観察事項」や「改善の機会」として116件の指摘がありました。全て直ちに是正処置を取り対応しました。

内部監査の傾向としては、運用等の確認が重要視されるとともに、指導的コメントが増えて改善向上型の活動になっています。また、現場主体型の内部監査を実施し、全社で水平展開して取り組んでいます。

外部監査の審査結果状況

外部認証機関(インターテック・サーティファイケーション株式会社)による維持審査を実施しました。

審査の結果、全社合わせて「軽微な懸案領域」18件と「改善の機会」10件の指摘がありました。指摘いただいた項目には、さまざまな内容のものがありますが、審査員の言葉から読み取った指摘事項を含め、全てに是正処置を取り改善しました。

全社員教育の状況

竹田マネジメントシステムの効果的な運営を図るために、全社員に対して次のような教育をしています。

- 全社朝礼・職場朝礼、各種委員会のほか、竹田印刷では「年間教育計画表」のもと、年3回、全社員を対象に勉強会を実施しています。
- TMS推進委員会において各ブロックに教育責任者を立て、漏れのない教育体制を構築しています。
- 勉強会では共通の資料を使用し、全社員に対して教育を実施しています。
- 教育は実施して終わりではなく、理解できたかどうか、「自覚の確認」にて教育効果を確認しています。
- 教育実施後は、「教育実施記録」を作成し、保持しています。



営業部「教育・勉強会」の様子

営業作業マニュアルの改訂

新入社員や若手営業担当者の教育ツールとしての使用、及び作業標準化によるミス・ロス・トラブルの防止を目的として、営業作業マニュアルを作成し活用しています。



営業作業マニュアル表紙

環境保全の状況

法規制の順守

環境に関する法規制を順守し、環境汚染をできる限り少なくすることは、企業の重要な責務との認識のもとに、管理しています。

主な該当法規制一覧

法規制等の名称	該当施設及び項目
環境基本法	全部署
大気汚染防止法	オフセット輪転機における乾燥装置
水質汚濁防止法/下水道法	フィルム及び印刷版の自動現像機
騒音規制法	印刷機、圧縮機、送風機
振動規制法	印刷機、圧縮機、送風機
悪臭防止法	洗浄及び検査における薬品等
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	紙くず、酸性及びアルカリ性廃液、廃油、廃プラスチック
容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律	容器の再商品化義務及び識別表示の義務
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律	化学物質の特定及び排出量の把握及び届出
ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法	廃PCB(廃コンデンサ)
自動車から排出される窒素酸化物及び粒子状物質の特定地域における総量の削減等に関する特別措置法	営業車の使用管理計画書の作成及び営業車使用管理実績報告書の作成と届出
消防法	防火設備の設置、管理及び点検報告の義務
エネルギーの使用の合理化に関する法律	全部門
名古屋市緑化推進条例	事業活動の実施にあたり緑化の推進等に必要措置を講ずる
市民の健康と安全を確保する環境の保全に関する条例	事業活動による公害を防止し、負荷を低減するため、自己の責任において必要な措置を講ずるとともに市の施策に協力する
東京都環境確保条例	ディーゼル車の排ガス規制事業者への責務
越谷市環境条例	自動車の使用者又は運転者の責務
大阪府生活環境の保全等に関する条例第19条第1項	事業活動による公害を防止し、負荷を低減するため、自己の責任において必要な措置を講ずるとともに市の施策に協力する

化学物質管理

竹田印刷は、環境マネジメントにおける化学物質等の管理に関し必要な事項を「化学物質リスクアセスメント規定」に定め、自主的な適正管理や安全性の高い代替物質への転換を促進するとともに、化学物質による危害防止、火災予防、労働災害の防止並びに廃棄物の拡散防止に努めています。

騒音・振動の予防策と測定状況

騒音・振動防止対策として、印刷工場は建築設計の段階から防音対策構造として二重壁・二重窓を採用し、内壁には吸音材使用による防音対策を施しています。また、振動を防ぐ振動防止対策基礎設計の建築となっています。

騒音の測定記録については、時間率騒音レベルを求めた結果、全時間帯において規制基準値を下回りました。

排ガスの予防策と測定状況

大気汚染防止法のばい煙発生施設に該当しているオフセット輪転機の乾燥装置は、定期的に年2回の排ガス測定を実施しており、法規制値より厳しい自主管理値を設定し徹底管理を行っています。

工場排水処理策と測定状況

水質はPH(水素イオン濃度)、BOD(生物化学的酸素要求量)、SS(浮遊物質)、金属含有量、有害物質等の項目を定期的に年2回測定し、法規制値より厳しい自主管理値を設定し徹底管理しています。

廃棄物の管理・運営

事業活動の中で発生する廃棄物を適正に処理するため「環境側面特定管理規定」を定めています。

廃棄物は、それぞれ種類別にして保管し、管理方法を決めています。特に特別管理産業廃棄物は、水質汚濁や土壌汚染を招かないように厳しく管理しています。

また、年に1回以上は、産業廃棄物処理業者への立入り調査を行い、目視により適切な廃棄物処理が行われているか確認しています。

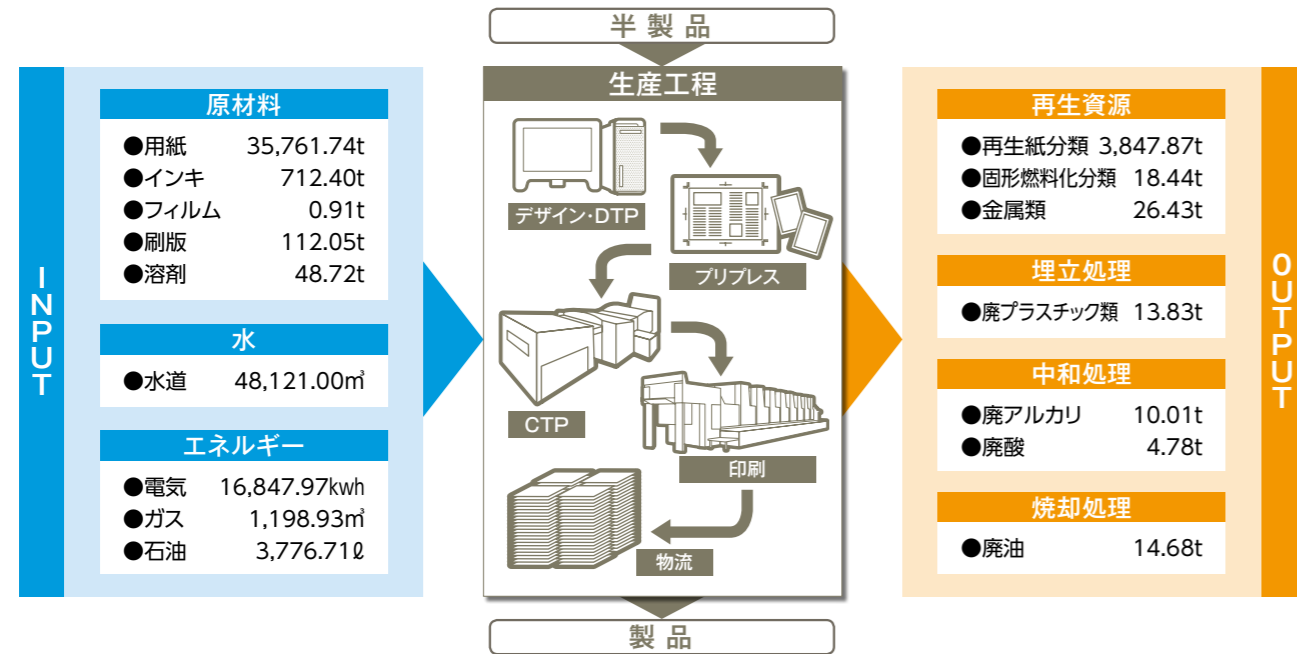


環境負荷の全体像

事業活動に伴う環境負荷量

竹田印刷では「紙・フィルム・樹脂及びインキ等」を原材料として製品を製造しています。できる限りインプット・アウトプットデータを収集しまとめています。

事業活動における2016年度の資源投入と環境への排出



ISO14001 (2015年版対応)の教育

2016年度、第3回の全社員勉強会は「ISO(環境)2015年版を理解しよう」をテーマとして、規格の要求事項の変更点を中心に「法令順守」「環境保護」「環境パフォーマンス」等について教育を実施しました。

グリーン購入・グリーン調達

環境活動を効果的に行うために、原材料、副資材等の購入、設備機器の導入等の際には環境に与える影響を削減するように配慮しています。環境目的・目標にも「グリーン調達の推進」を掲げ、グリーン調達の情報を収集し積極的な促進を図り、半年に1度は価格の見直しを行い、常に経費の削減にも気を使っています。

緊急時への準備対応

事故・緊急事態に対する対策

竹田印刷では、事故・緊急事態の可能性として「火事・爆発・漏洩(大気・水系・土壌)等」を想定し、発生した場合の環境への重大な影響(大気汚染・水質汚濁・土壌汚染等)を防ぎ、迅速に対応・処置するために「不適合及び緊急事態対応管理規定」を定めています。その中でも、予防・初期処置及び対処に必要な設備・防災備品の設置のほか、連絡網の明示・模擬訓練の実施・発生時の基本行動について定めています。



土のうを使った訓練の様子

2016年度苦情・処置

2016年度における苦情・処置は発生しておりません。

印刷物製造上の環境対応

水なし印刷

通常のオフセット印刷では、版の非画線部へインキが付着しないように、「湿し水」と呼ばれる水溶液を使用します。しかし、湿し水には、IPA(イソプロピルアルコール=VOC揮発性有機化合物)や、H液(グリコールエーテル系の化学物質を含む)等の有害物質が多く含まれています。

それに対して水なし印刷は、非画線部にインキをはじく特性を持つシリコン層を使用することにより、有害な湿し水を全く使用せず印刷を行うことができますので、廃液を出さず、環境に配慮した印刷方法といえます。

2016年度には、この水なし印刷方法で41件の印刷物を制作しました。



水なし印刷機



水なし印刷方式を用いた印刷物には「バタフライマーク」を掲載できます。

カーボン・オフセット

カーボン・オフセットとは、市民、企業、NPO/NGO、自治体、政府等の社会の人々が自らの温室効果ガスの排出量を認識し、主体的にこれを削減する努力を行うとともに、削減が困難な部分の排出量について、他の場所で実現した温室効果ガスの排出削減・吸収量等を購入すること、または他の場所で排出削減・吸収を実現するプロジェクトや活動を実施すること等により、その排出量の全部または一部を埋め合わせることを言います。

竹田印刷では、年々需要が高まるカーボン・オフセットに対応するため、温室効果ガスの排出量を算定できる仕組みを構築しています。今後も企業価値の向上と地球温暖化への対応としてお客様に強くアピールしていきます。

竹田印刷の環境認定状況

FSC森林認証

竹田印刷では2004年8月に、森林管理協議会(FSC:Forest Stewardship Council)の森林認証制度において生産・加工・流通工程の管理認証(CoC認証:Chain of Custody)を取得いたしました。これにより、商業印刷物のCSR/社会環境報告書、会社案内、カタログ等にFSC森林認証取得の用紙を使用した場合、FSC CoC認証マークを付けられるようになり、2016年度には246件の印刷物が制作されました。



グリーンプリンティング

この認定制度は、社団法人日本印刷産業連合会が認定機関となり、『日産連「印刷サービス」グリーン基準』に基づき、客観的証明によりグリーンプリンティング認定を行う制度です。

竹田印刷では、本社工場、高辻工場の2工場が、グリーンプリンティング認定工場に認定されています。またデジタル印刷工程も対象として、より多くの環境配慮型印刷製品に取り組み、印刷環境基準とも整合性を持つよう配慮しています。

グリーンプリンティング認定制度に基づき、2016年度は3件認定されました。この結果を踏まえ、当社は今後も地球に優しい印刷製品作りを推進していきます。

